

インテグレーションをどう考える？

―聞こえない子をもつ親たちの意見から―

ここの述べられているのは、ホームページ『聞こえない子をもつ親のページ』の「掲示板」に、2004年3月に書き込まれた「インテグレーション」についての意見です。

聞こえる親、聞こえない親、インテグレーションしている子をもつ親、これからしようとしている子をもつ親・・・それぞれに考え方があります。いろいろな考え方に触れるなかで、それぞれのご家庭でインテグレーションについて考えていただく材料として頂ければ幸いです。なお、『聞こえない子を持つ親のページ』は、以下のアドレスです。<http://www.d-b.ne.jp/d-angels/>

[10491] **ありがとうございました** 投稿者:A 投稿日:2004年03月01日(月)13時51分

みなさんのお子さんは保育園にいったらいいですか？うちはまだ行ってないのですがどうしようか迷っています。教室のお母さんたちはだいたい保育園に通わせていて、健聴者の子供と一緒に遊ぶのもいいよ。とか、たくさんの友達ができるからいいよ。と言っています。保育園に行くとなると、私自信働かないと入れないし。やっぱり保育園に入れて沢山の友達とかかわった方がいいんですかね～？

[10492] **Aさんへ** 投稿者:B 投稿日:2004年03月01日(月)14時55分

私は、聾学校の幼稚部と地元の保育所の両方に通ってました。だから、家の回りにも友達も沢山います(^_^)回りの子供たちも小さいときから耳にハンデがあるお友達もいるんだってことを理解できると、大きくなって差別するような人にはならないと思いますよ。そういう面では、お子さんにも回りの子供さんにもよい勉強?になると思います。

[10494] **保育園** 投稿者:C 投稿日:2004年03月01日(月)15時03分

>やっぱり保育園に入れて沢山の友達とかかわった方がいいんですかね～？

聞こえない我が子は、聞こえる子の集団の中では、みそっかす、もしくはお客さまになるのを承知しているのならば、それもまた1つの方法でしょう。まあ、みそっかすも悪くはありません。

[10496] **保育園かぁ・・・** 投稿者:D 投稿日:2004年03月01日(月)15時48分

家の子は保育園は行ってません。来月聾学校の幼稚部入学です。幼稚部のお母さんの話を聞いて、思ったのはその子供によってさまざま、ってところでしょうか？幼稚部には保育園に通っている子は今はいません。行っていた子もいたのですが、やはり気持ちがうまく伝えられない（友達も保母にも）ことが大きかったのと、自分は友達とはちょっと違うというのがどうも原因らしいのですが、子供が行きたくないというのでやめたらしいです。その子の性格によるかな～？とも思います。周りに味方（この言い方が正しいかわかりませんが）になってくれる友達がいるとまた違うかも？

難聴の子供が保育園に行つて得るものって大してないんじゃないかな？理解してくれる子供と保母のいるところは別でしょうけど。どうなんでしょう？よくわかりません。どなたかご意見いただけませんか??

[10497] **保育園** 投稿者：E 投稿日：2004年03月01日（月）16時59分

うちの子は（たぶん）難聴で、4月から幼稚園に通うことに決まっています。幼稚園も保育園もきっと、同じで、通いだせば、みっそかすになるんだろうなあ...お歌を歌うことも出来ないし...
まだ、検査途中で、どんな道が待っているのか？ですが、いじめられっ子を覚悟しておいた方が良さそうですね。

[10498] **我が家も・・・** 投稿者：F 投稿日：2004年03月01日（月）20時00分

娘も4月からろう学校幼稚部入学です。今までも保育園には入れていませんでしたが、これからも考えていません。娘が通うろう学校は木曜日が交流日となっているため、木曜日と土曜日に保育園に通っている子が多いです。（保育園に入っていない子は木曜日もろう学校に来ます）聴覚口話法時代からの名残で交流日があるようですが・・・

最近、別のろう学校のお友達から「ろう学校のお友達の数があまりに少ないから、保育園に入れたほうがいいんですかね？」という相談を受けました。聴親・聴兄弟を持つろう児に聴の子供の集団に入れることはあまり意味がないと思うのですが、ろう学校で集団生活が経験できないとなると、どこで集団生活を経験させたらいいのかと悩んでしまいますよね。やっぱり保育園???

[10499] **家の場合** 投稿者：G 投稿日：2004年03月02日（火）08時46分

はじめまして。いつも心がお世話になっております。私は男の子3人の母です。

長男が難聴です。近くで大きな声で話せば何とか聞き取れる程度です。保育園がテーマになっていたのが気になって家の場合で話を聞いて頂こうとレスしました。長男は保育園と幼稚園では余り進んで友人と遊ぶと言う事はありませんでした。始めは聞こえないせいだと思っていたのですが・・・3人通わせて見ると性格だなと思いました。今三男が保育園児なのですが・・・長男とやることすべて同じです。保育園での生活も子供の中に入っていけず決められたことはするのですが子供だけの世界が不安のようで時間を持て余しているようです。

長男は今度3年生になります。保育園、幼稚園とクチパクで余り歌ったり発言したり出来ませんでした。紙芝居とか先生の言葉は聞こえず確かに辛かったと思います。私はわからなければ友達に聞くという力(出来ればですが)もつけて欲しかったのと、同年と過ごす時期は過ごさせ経験させたい気持ちもありました。幼稚園で余り遊ばず本ばかり読んでいる姿を見るたび窓の外で涙した事もあります。自分は間違っているのではないか?何度も葛藤がありました。

小学校へ通っても内向的でした。学校は時間でやる事が決まっていてパターンさえ知れば保育園とか幼稚園より居心地がよいそうです。今は先生の授業中の問題にも手を上げて答えられるようになりました。最近の出来事ですが休み時間一緒にドッチしたくて友達へ近づくと友達の誰かが「一緒にする?」と(聞いてくれるのを期待して近づくのですが)一緒に入れるようになりました。

私は「自分から入れてって言わないと大きくなって自分が困るよ」という話を何度もしました。昨日子供が「今日もドッチした。今日は自分から入れてと言えたよ。」ととても嬉しそうでした。私もよくやったね。何度も何度も褒めてあげました。辛い事も沢山ありますが成長していく姿はとても頼もしいです。楽しく通ってくれる間は今の団体生活を楽しんで欲しいと思っています。

三男は保育園暦1年ですが笑わない喋らない子供をまだ演じています。きっと長男のように皆には入れる時期が来ると今は気にしていません。子供の性格がとてもネックになるのだと思いました。確かに聞こえない事で内向的になりますが小さいうちは聞こえていても内向的になる子は沢山います。これは家の場合ですが・・・聞きたいことがあればメールください。長文で<(_)>。あー保育園の時間だ!起こさないと・・・では失礼します。

[10500] **そうなんです**ね 投稿者 : A 投稿日 : 2004年03月02日(火) 15時00分

保育園に行った方がいいとばかり思っていました、そうではないんですね。耳が聞こえにくいとゆうことで大変な思いもすることもあるんですね。ろう学校のことを聞いてもいいですか?詳しくはまだわからないのですが、ろう学校では口話が主なんですか?手話はまだ使われてないんですか? いまは息子は9ヶ月で先の話で

すが、教室のお母さんたちは口話だけだとかなりしんどかったと言っていました。

(ろうのお母さんです)

私は口話だけではなく、手話も一緒にしてほしいと思います。みなさんのお子さん
もろう学校では手話とかはやってるのでしょうか？

[10501] **幼稚園** 投稿者：H 投稿日：2004年03月02日（火）22時10分

初めて投稿します。幼稚園や保育園に関する内容があったので思わずキーを打っています。私の時も幼稚部の他に週2～3日幼稚園に通っていました。性格もあるのでしょうか、幼稚園があまりにもつまらないところだったことを覚えています。いつも一人で砂場で遊んでいました。同級生との会話も分からず、先生の話も当然分かりませんでした。ただ、ろう学校の先生が参観に来るときに限って、先生や同級生の態度が優しくなったことが今でも引っかかっています。普段はほっとくくせに、聾学校の先生が来るときだけ、「あそぼう」と声を掛けてくれるんですね。だから、本当の生活の様子を見て貰っていたのかな、と疑問がありますね。聾学校は友達がいるから楽しかった、けど、幼稚園に関してはあまり良い思い出がありません。親は、「分からないなら頑張って聞いた方がいいよ」「お友達にいれてというんだよ」と言われるけど、頑張って聞いたところで、一片の情報くらいしか有りませんし、どんな情報が周りにあふれているかも分かりません。いれて貰ってあそぶにしても、小さいときだから身体を使ってあそぶのでそんなに深い会話が入らないのでまねさえしてればなんとでもなるんです。

問題は大きくなってから、会話が複雑になってきたときに、それまでの会話の積み重ねがないので、どのように話をすればいいのかすら分からない時もあります。手話にであう前までは、決まり切った単純な会話だけだったような気がします。聞くときには勇気がいらしますし、何度か傷つけられたか分かりません。幼稚園の友達の家に行って、閉め出されたこともありました。むしろ、聾学校のお友達との会話の方が何を話しているのかが見えるので楽しかったことを覚えていますし、今も手話を通して会話することの方が情報が見えるのでありがたいと思っています。どんなに本人が頑張っても、限界があります。

親はきこえる社会で頑張る力をつけて欲しいと願うのですが、ずっときこえる社会に一人にいるのは、大きくなればなるほど限界を感じてきてしまいます。本当にきこえる社会で頑張る力をつけて欲しいのなら、そのためにも、手話やきこえない仲間との会話やふれあいを通して人間としての基礎を身につけていける環境も必要だと思っています。いろんなきこえない大人の体験談などをもとに、きこえる社会中心に考えないで、幼稚園の先生、幼稚部の先生、きこえない社会などなど、各方面から子どもの成長をサポートして欲しいと思います。

[10502] **Aさんへ** 投稿者：F 投稿日：2004年03月02日（火）22時14分

ろう学校が手話を使っているか、使っていないかは各ろう学校の指導方針によって違います。最近では手話を使い始めた学校が増えています。でも、ろう学校が口話の方針でも子供たちは先生がいないところでは手話を使っていると思います。隠れてでも手話を使うということは、自分たちの言葉は手話だと言っているんですよ。

Aさんのお子さんが通われている教室というのは、療育センターのことですか？ろう学校にも乳児相談というのがあって、幼稚部年齢以下の子供が週1 or 2日通って指導を受けています。どこのろう学校にも乳児相談はあると思いますよ。Aさんはろう学校には相談に行かれたことはないのですか？

[10503] **はっきり言って、お客様でした。** 投稿者：I 投稿日：2004年03月03日（水）00時19分

幼稚部時代、週一の割合で地元の保育園に行っていました。普通は毎日行くものなのですが、私は週一。つまり水曜日しか来ない珍しいお客様みたいな感じ。しかも卒園間際の時期だったのであまり仲良くならなかった覚えが。

それに、保育園って思ったより団体行動とか必要じゃないです。自由時間はみんな好きなコトして遊んでいる感じだったのを覚えています。多分、毎日保育園だったらイヤだったかも。ろう学校の方が結構団体行動が多かったですね。学年でいうとやはり小人数なので、幼稚部全体ひっくるめての行事が多く、上級生が下級生の面倒を見るなどやっていました（ペアを組ませていました）

Hさんが書かれていたように、私もろう学校の方が会話が全て分かっていて安心感がありました。情報もわりと入ってきたと思います。地元の保育園では多少「???」がありました。何よりキュー通用しないですからねえ。その状況をぬるま湯と取るかどうかは人それぞれですが、人とのきちんとしたコミット、そしていろいろな情報が大切な時期に子供がストレスと感じる環境を与えるのもどうかなあと思います。子供にも個人差はありますから、全ての子供が積極的に質問出来るとは限りません。これだけは心に留めておいて欲しいのですが、

分からないところを知りたいと思っても、どこから分からないのか判断しようがないのが現状なんです。一度聞いて答えてくれればいい方。二度も三度も聞き返せませんね。初めから全部分からない、なんてコトもあります。そんな状態で最初からまた話をしてもらっても悪いと思ってしまったり、リアルタイムの話ではなく、かいつまんで話された形になるので「お話し出来た！！」という実感は得られにくいと思います。

そんな状態で、「分からないことは何度でも聞け」と親からいわれるとやはりきついです。出来ることならもうやってるよ！！といたいくらいなのです。私もか

なりそういう風にいわれて育ちました。どちらかといえば分からないことはそのままにしておかない方ですが、凄い長い話とか、口の形が読み切れないが、相手がノリノリで話している、なんて時は聞き流してしまいます。分からなくても、取りあえず頷きます。不満は残るものの、長い話をもう一度リピートされるのも疲れます。手話があると話が目に見えるので、凄く助かります。話が分かるので、それに対する返事も適切に返せるし、相手が更に深く話のやりとりを交わそうとしてくることもあり、そんなことの積み重ねで人と付き合う力が養われるのではないのでしょうか？ただ、集団の中に入れておけばいいというものではないという気がします。

要は子供が自分の置かれている環境をどう理解して利用出来るかだと思います。

[10506] 7歳からの失聴ですが、やはりお客様でした。投稿者：J 投稿日：2004年03月03日（水）15時05分

Hさん、Iさんが書いてらっしゃいますが、7歳からの失聴の私もやはりお客様でした。しかし、それまで聞こえていたからろう学校に行かされるのは捨てられるように思って、行きたくない、今の学校に通学したいと言ったのは私自身でした。でも、聞こえないから周囲に合わせて目立った行動をしないことで精一杯で、楽しい会話の思い出なんて一つもありません。でも自分が不幸だと当時は思いませんでした。比較の対象がないからですよ。

私が人間関係らしきものを築けるようになったのは、大学に進んで授業がわからなくて本当に息詰まってしまうと藁をもすがる思いで行った「中途失聴者のための読話教室」で同い年の女の子二人と友達になったことからでした。その時に私が全然ダメだと思っていた読話能力は十二分に発達していて、ただ、読話の限界（知らない言葉は読めない、とか、連想できない言葉はわからない、などです）ゆえに大学で口の動きを読んで何かをすることは無理と知ったことからでした。同い年の女の子の友達同士でも、読話では会話ができないので三人で手話を習いに行ったんです。お互い通じないことをいたわり合って会話することはとても私の荒れて乾いた心に染みしました。こんなふうにおもいやった会話をしてくれた人はいままでいませんでした。口の動きがよめなければただ私の責任で怒られたり見下されたり。自分を卑下する以外なくてどんなにつらかったか。そういう思いはもうこれからの後輩にはしてほしくないと思ってこの掲示板を読み続けています。

健常者と障害者が一緒に学ぶ、たしかにうるわしい言葉です。でも現実はどうですか？これはろう児にかぎりませんが、努力を強いているのはいつも障害児です。健常児にはなにもかも障害児には寛容であるようにだけ言い渡して、どうすれば対等につきあえるのか、障害の特性も教えないままに放っておかれているのが現実です。本当に一緒に学ばせたいなら、障害の特性についてクラス単位で学ぶこ

とです。そして手話を覚えてもらうことです。それは別に特別扱いでも何でもないことです。車椅子の人に向かって「いつも座ったきりで生意気だ」と言いますか？車椅子の人の方がいつも見上げる視線で上目づかいでいることを苦痛に感じていることを気づかないで、大抵の人は立って見下して会話してますよね。本当に対等に話したければ車椅子の人に対してはかがむ必要があります。そういうことを、ろう児・難聴児の親御さんには気づいていただきたいです。子供に無理させることばかりしてませんか？

[10505] **Fさんへ** 投稿者：A 投稿日：2004年03月03日（水）07時05分

ろう学校にはまだ相談には行ってません。今いってる教室はぴょんぴょん教室といって0～2歳までのクラスで、ろう学校の幼稚部の下のクラスではないのですが今は週に1回行ってます。3歳になるとろう学校などにはいかないといけないのですが・・・

ぴょんぴょん教室を卒業した子供のお母さんはろう学校ともう1つろう学校とは違う3歳から行く園があるのですが両方見学に行ってみてもう1つの園の方が子供達はいきいきしていて楽しそうでよかった。といってる学校ではなくそちらの園にいられているのです。私もその話を聞いてだけなのですが、ろう学校はあんまりなのかな・・・とってしまいます。そこのろう学校がまだ手話をしてなく、お母さんたちには子供が手話なしではキツイだろうなと思ったと思うのですが。

今行ってる教室でも2つの学校を見学に行くみたいで、そのときによくみて考えようかとおもっているのですが・・・

[資料]

きこえない・きこえにくい子ども達の居場所はどこ？

—インテグレーションの現場から—

南村 洋子

1993年3月末、私が指導していた子どもたち9名は、それぞれ地域の小学校入学が決まり、年長さん最後のおしゃべりをしていた。ある子どもが「ねえ、みんな私たちだけの小学校を作りたいね。」「名前は、はとの森小学校にして…」「うん、いいなあー」「そしたら、また、みんなとずっと一緒だよね」。

1993年、「母と子の教室」閉鎖に伴って、インテグレーションについてのアンケート調査を母と子の教室修了生に実施した。インテグレーションを経験した修了生は、アンケートに答えて自分が経験したインテグレーションは、学校の授業に関して「一に我慢、二に努力、三に諦め」であったと答えた。また、友達関係については「疎外感と孤独感」がいつも付きまとうものであったと答えた。あれから10年余りが過ぎたが、インテグレーションの現状はどのようになっているのだろうか。アンケートに真摯に答えてくれた修了生の声に充分答えられるだけのことを、私達関係者はこの間行ってきたのだろうか。また、現在インテグレーションしている子どもたちは、聞こえる子どもたちと同じように豊かな学校生活を送っているのだろうか。

トライアングル専門家部会では「豊かな学校生活を考える研究会」で、「インテグレーションしている子ども達のために何が出来るのか」を話し合い、その結果として2003年8月に出版物「きこえない・きこえにくい子どもの豊かな学校生活」を発行した。この本には、45分間殆ど分からない状態で椅子にすわっていなければならなかった「きこえない・きこえにくい子ども」にとっては朗報であると思われる「授業における情報保障のノウハウ」が細かく網羅されている。しかし、こうした情報保障は、まだ全国的にも始まったばかりである。

一昨年暮れ、あるお母さんと地域の学校へインテグレーションしている中学生が話しに見えた。そばで私と彼女のおしゃべりをじっと聞いていたお母さんから、「娘は何の問題もなく学校生活を送っていると思っていました。なぜなら何か困ったことない？と私が、きいても大丈夫といつもも言っていたからです。子どもは、親に心配を掛けまいと本当の事はなかなか言わないのですね」というお便りをもらった。

また、N県のKさんは地域の保育園から小学校、中学校とインテグレーションをしてきた。地域で学び、地域の友だちと遊ぶことは、彼女にとってはいつもがんばることであった。また、お母さんの口癖は「Kは、本当によくがんばってます」だった。しかし「がんばり」にも限度があり、途中、幾度も登校拒否や保健室登校を繰り返した。そしてこの4月、地域の高校へ進学した。お母さんは「Kは、自分の行きたい高校に通うことになりました」と電話の向こうから明るい声で報告された。幾多の辛いインテグレーションを経ての彼女の希望高校への進学は、これからのばら色の学校生活を予感させた。

そして、一学期が終わり夏休みがあけてしばらく経ったある日、電話が鳴った。Kさんのお母さんからだった。「Kが学校に行きたくないといっています。友だちのおしゃべりが何もわからない。つまらない。ろう学校へ行きたいといっている。」という。私は、Kさんがようやく自分の本音をお母さんに

ぶつけてきたと思い、ある意味でほっとした。翌日、お母さんとKさんが特急電車にのって、私の前に顔を見せた。私のまん前に座ったKさんは、今までのKさんとは違って晴れ晴れとした表情をしていた。今までのもやのかかったインテグレーションの状況から、今まさに這い出せるという期待と喜びに思わず唇がほころびそうになるKさんをまじかに見ながら、涙がこぼれそうになった。「お母さんもKさんも良くがんばったじゃない。もういいんじゃないの。ろう学校に行きましょう。友だちのいるろう学校へ行きましょう。」

Kさんは、それからすぐろう学校の高等部に転校した。だからといって、地域の高校が決してKさんにとって冷たい所だったわけではない。Kさんにとって良かれと思われる事は、学校側も友だちも努力して、善意の手をたくさん差し伸べてくれた。2学期になってKさんが登校拒否になると友達から毎日のように手紙が届き、「Kさんが学校に来るのを楽しみに待っている」というメッセージが送られてきた。友達は、皆、優しくKさんを見ていた。

しかし、彼らは、いつも彼らが無意識にKさんを「シカト」していたことには思いも至らなかったのだ。人と人との関係は「ことばのやりとり」が成立して、初めてコミュニケーションができたといえる。言いつ放し、聞きっぱなしは、人と人がコミュニケーションしたことにはならない。

Kさんは今、聾学校という同じ仲間集団の中で、毎日手話を用いて同級生と或いは上級生・下級生と思いきりおしゃべりをして、自分の思いの丈を吐き出している。Kさんはようやく自分の居場所を見つけた。きこえない子どもたちは、裸の自分をさらけ出し、受け止めてくれる仲間、同じ文化をもつ仲間とのふれあいの場を探していた。

2003年4月、都立大塚ろう学校の中に「きこえとことば」相談支援センターが立ち上げられた。ここでは、乳児からインテグレーションしている子どもたちまでの幅広い相談を随時、受け付けている。メンバーは、ろう学校教員と外部からドクター・成人聴覚障害者・親などで構成されている。インテグレーションしている子どものことで相談を受け、実際の授業を参観する。十分な情報保障のないまま、お客様状態で席に坐っているだけの子ども、手遊びをひとりしながら45分の時間を過ごす子ども、発表会で自分のパートのみを発表し、他は不明のままそこにいるだけの子ども、休み時間、おしゃべりの輪から離れてひとり運動場を眺めている子ども、明らかに「心理的不適応」を起こしている子ども。きこえる子どもと一緒にいればきこえない・きこえにくい子どもは幸せなのか？100歩譲って、できる限りの情報保障をし、がんばらせることできこえない・きこえにくい子どもたちは豊かな学校生活を送ることができるのか？

子どもの幸せ度は「笑顔」だといわれる。子ども達の顔に、心からの笑顔がこぼれるインテグレーションの道はあるのだろうか？大塚ろう学校の「きこえとことば」相談支援センターは、活動のひとつとして、インテグレーションしている子どもたちが、心から笑い、楽しく、互いに理解し合え、豊かな学校生活を送れる「居場所」としてのろう学校を目指している。

「はとの森小学校」建設を提案した子ども達は、それぞれに紆余曲折を経ながら、現在、ろう学校の高等部や地域の高校に通っている。彼らも悩み、苦しみ、「今」を生きてきたのだ。

10年前、せつかくの子ども達の真実の声と英知と希望に満ちた提案を、聞き流すしかなかったことが悔やまれる。

